2008 年度アートマイルプロジェクト評価シート

■基本情報について教えてください。

学校名［　東京都立田柄高等学校　　］	担当教諭［　　長島春美　　］
児童生徒の学年・クラス・参加人数：［3年　総合「つなげよう」　組　２２　名］	
実施期間：２００８年　４　月　～　２００９　年　３　月	
交流：無・(有)（国名［ インドネシア ］学校名[国立ウブド第一高等学校］担当教諭[Ms. Ketut Karsi　]）	

■作品について教えてください。

題（テーマ）	環境・平和を守るために互いの文化を知り融合を深める
絵に込めたメッセージ	日本の絵巻に見る人々の生活と美意識

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	４月 ～ ５月	今年度取り組む内容について概略を説明する。 日本の絵画の基礎的な知識を学び体験する。（日本画の基礎技法の練習。土から絵の具をつくって生物を描く。色紙に金箔を貼り、伝統的な絵画や文様から模写をする。）	説明を読まずに希望した生徒が多く、驚いた様子。 概ねよく取り組んだ。	
情報収集	９月 ～ 11月	・塩飽さんによるアートマイル講演会 ・自己紹介の絵手紙を描く ・　インドネシアと日本について調べる。（歴史、文化、社会政治状況、教育など分野別に分かれて分担） ・　教員が読んだインドネシアの長編小説７巻について説明。	・注目して聞いた ・相手のイメージが湧かず、表面的な表現に終始する。 ・　面倒くさいという生徒、おしゃべりや雑誌を読んで過ごす生徒も少なくない。 ・　あまり興味を持たない。	
テーマ検討	12月	・　源氏物語千年祭を記念して源氏物語絵巻を中心に取り上げることを提案。 ・　相手校にアイデアの骨子についてメールで意見交換。	・生徒から骨子を提案するのは難しい。源氏物語絵巻を中心に考えるという教員側の提案に生徒は同意。	
制作	12月～ ２月	・　伝統絵画から生徒各自が紹介したい画面を提案し下絵にまとめて、相手校にメールで送った。 ・　とし、	・　画集から探し提案することは模写の経験もありスムースに運ぶ。 ・　本描きに入ってからの授業が２回しかなく、全員で取り組むのは一人一枚の「かるた」が精一杯。授業が無くなってからは有志のみで中心の部分を描いた。	
鑑賞	２月 ３月	・相手校に送る前に生徒全員に声をかけ、壁に掛けて記念写真を撮った。	・２月にはいると３年生は登校日が一日しかない。その日に呼びかけて集めたが、ホームルームの時間帯とのかねあいも難しく参加できない生徒もいた。	

■学習目標と成果はどうでしょうか？（順位は重視したものから順に１～５まで記入してください。順位のつかないものも記入してください）

（５：とても身についた　４：身についた　３：どちらともいえない　２：あまり身につかなかった　１：まったく関連がなかった）

順位	つけたい力・指導目標	先生の手応え	そう感じた場面・理由
	コミュニケーション・スキル	５・４・３・(２)・1	普段の仲間関係以外でコミュニケーションをする機会はあまり作れなかった。
	情報活用能力（収集・発信）	５・４・３・(２)・1	焦点を絞りきれず、散漫になってしまった。
	人間関係をつくる(交流相手･学級内)	５・４・(３)・２・１	普段の仲間関係以外でコミュニケーションをする機会はあまり作れなかった。
	協同作業をする力（役割・段取り）	５・４・(３)・２・１	具体的な相手校の生徒たちの姿が見えず、情報交換がほとんど無いまま作品化することになり、動機付けが十分でなく、授業時間もないことから一部の生徒を除き、役割意識を高めることが出来なかった。
	異文化の理解	５・４・(３)・２・１	具体的な交流がほとんど出来ずに終わった生徒が多く、地域への偏見を持っている生徒もおり、知識や間接的な情報のみで、なかなか興味を湧かせることが出来なかった。
	自文化の理解・自分を見つめる	５・４・(３)・２・１	上記のような状況の中では、一部実際に交流できた生徒を除き、真剣な取り組みには至らなかった。
	表現力	５・４・(３)・２・１	画面をつくるのが精一杯で「表現」というところまでは行かなかったというのが率直な感想です。
	学習を追究する意欲	５・４・(３)・２・１	焦点を絞りれずに終わり近くまで引きずってしまい、学習意欲をかき立てるには至らなかった。
	作品を鑑賞する力	５・４・(３)・２・１	完成作品が戻ってきたときには卒業してしまっており、一部の生徒のみの鑑賞となった。

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成果	課題
最後まで取り組んだ生徒たちにとっては、他国の生徒との交流と文化を垣間見ることとなり、またとない経験ができた。	相手校との交流を早く始め具体的な情報交換を密に行っていく必要がある。生徒たちが直接交流する場面が十分に必要である。

■その他ご感想・アートマイルプロジェクトへの要望などありましたらどうぞ。

単年度の短期的な交流ではなかなか難しいと思った。可能ならば継続的な交流が出来たらいいと思う。特に三年生は年度の開始時期が半年ずれると実際の交流はほとんど出来ないようだ。小中学校と高校ではかなり異なる面があるのではないかと感じた。子どもたちの意識と実際の力のギャップは年齢が高まるほど大きくなる。困難をきわめる中で手厚いご援助をいただきありがとうございました。ビデオ会議は、生徒たちにとって、とてもインパクトがあったようです。来年度も是非行いたいです。